

## 唐津焼③唐津焼の種類

～唐津焼にはどんなものがある？～

唐津焼は技法や装飾の種類から、叩き唐津、絵唐津、彫り唐津、斑唐津、朝鮮唐津、青唐津、黄唐津、黒唐津、三島唐津、二彩唐津などに分けられます。

叩き唐津は、粘土紐を輪積みにして指でつないだ後、器の内外から木製の道具で叩き仕上げたものです。内外から叩くことにより素地が締まり、丈夫で薄くなります。大甕などは昔からこの技法で作られてきました。

絵唐津は、鉄分を多く含む顔料で文様を描いたものです。薄茶色の素地にシンプルで力強い黒褐色の文様が特徴です。

彫り唐津は、×印など単純な彫り文様をしたもので、初期の茶碗に見られます。

斑唐津は藁を灰にして釉薬に混ぜたもので、白色の釉薬がまだら状になった唐津焼です。

朝鮮唐津は黒い釉薬に白い藁灰釉が流れ込む表現のものを言います。古くは朝鮮で出来たような唐津焼のことを意味していたようです。

青唐津は濃い緑色、黄唐津は黄土色、黒唐津は黒色の釉薬の掛かった唐津焼です。

三島唐津は、素地に印や線彫りで印刻文様を表し、そこに白い土を埋め込む象嵌という技法で装飾した唐津焼です。茶色の素地に白い文様が映えます。また文様を彫らずに白い土を刷毛で装飾したのも三島と呼ぶことがあります。

二彩唐津は刷毛で白土を塗った素地に、緑色の銅釉と褐色の鉄釉で装飾したものです。

技法で分類する唐津焼の他には、茶碗の様式で分ける呼び方もあります。「奥高麗」とは高麗（朝鮮の古い呼び方）の奥地で制作されたような唐津焼茶碗を言います。無地でびわ色に焼けた大振りの茶碗で、古唐津の茶碗の中では最高のものとされます。

江戸時代に唐津藩主に献上したものを献上唐津と言います。クリーム色できめの細かい良質の土を用い、鉄絵や象嵌の文様をほどこした作品が特徴です。

### ◎エピソード・伝承・うんちく など

- 絵唐津の素地は叩きではなく、ほとんどロクロ成形
- 叩きのものに絵唐津はない
- 朝鮮唐津は白の釉薬が上、黒の釉薬が下
- 韓国のキムチ甕も叩きで作られている
- 叩きの道具トキヤ（当て木）とシュレ（叩き板）は韓国でも同じ発音。唐津焼の叩き技法は朝鮮半島からもたらされたと分かる

分野 文化

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など



朝鮮唐津の水指



斑唐津の茶碗



絵唐津の大皿



三島唐津の花入れ

(『唐津探訪』より)

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『角川陶磁大辞典』2002年 角川書店
- ◆『唐津焼の研究』中里逢庵著 2004年 河出書房新社

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)